

## 行政視察 神宮次 秀樹 議員

日時：令和7年8月4日(月)～8月6日(水)

場所：北海道木古内町、北海道江差町

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野新都市BT～羽田空港第2ターミナル	バス	往	103.1				3,900	3,900
羽田空港～函館空港	飛行機	往	682.0			32,850		32,850
函館空港～函館駅前	バス	往	11.1				500	500
函館～木古内	鉄道	往	53.4	1,380				1,380
木古内～五稜郭	鉄道	往	37.8	1,080				1,080
五稜郭駅前～五稜郭	バス	往	3.2				280	280
五稜郭公園入口～中歌町	バス	往復	147.6				5,000	5,000
五稜郭～函館空港	バス	復	7.3				560	560
函館空港～羽田空港	飛行機	復	682.0			23,630		23,630
羽田空港第2ターミナル～佐野新都市BT	バス	復	103.1				3,900	3,900
計				2,460	0	56,480	10,240	73,080

宿泊料@16,500×2泊	33,000 円
交通費	73,080 円
(うち航空運賃)	56,480 円)
計	106,080 円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長 亀田 昌久

※金額や発行元などが、枠内に収まるよう、また重ならないように添付してください。

## 行政視察 神宮次 秀樹 議員

日時: 令和8年1月28日(水)～1月30日(金)

場所: 香川県東かがわ市、香川県高松市

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野駅～羽田空港	鉄道	往復	223.4	3,300	2,300			5,600
羽田空港～高松空港	飛行機	往	711.0			17,500		17,500
高松空港～瓦町	バス	往	18.2				900	900
瓦町～白鳥百十四銀行前	バス	往復	70.2				2,140	2,140
瓦町～高松けいりん場	バス	往	2.0				200	200
高松けいりん場～高松商工会議所前	バス	往復	7.8				400	400
県立武道館～高松駅	バス	復	2.1				200	200
高松～徳島	鉄道	復	74.5	1,640	1,730			3,370
徳島駅前～徳島阿波おどり空港	バス	復	14.6				540	
徳島空港～羽田空港	飛行機	復	703.0			12,500		12,500
計				4,940	4,030	30,000	4,380	42,810

宿泊料@16,500×2泊 33,000 円

交通費 42,810 円

(うち航空運賃 30,000 円)

計 75,810 円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長 亀田 昌久

※金額や発行元などが、枠内に収まるよう、また重ならないように添付してください。

令和8年3月31日

佐野市議会議長 菅原 達 様

## 令和みらい 行政視察報告

議員名 神宮次秀樹

1, 期日：令和7年8月4日（月）～8月6日（水）（2泊3日）

2, 視察地及び視察事項

- (1) 北海道 木古内町 「移住・定住政策について」（8月4日）
- (2) 北海道 江差町 「歴史を生かすまちづくりについて」（8月5日）

3, 参加議員

川嶋嘉一、神宮次秀樹、蘆原政夫

4, 視察報告

(1) 木古内町 「移住・定住政策について」

### ①木古内町の概要

- ・人口：3, 439人（令和6年1月現在）
- ・面積：221.86km<sup>2</sup>
- ・議員定数：10人
- ・議員報酬：17万円（月額）
- ・木古内町は北海道、渡島半島の南西部に位置し函館市から車で1時間のところにあります。北海道の中でも比較的温暖な地域ですが、道南の中では積雪が多い地域となっております。目の前には津軽海峡が広がり、町の大部分は山林が占めるなど自然豊かな町で、自然を活かして一次産業が行われています。2015年に北海道新幹線が開通し、北海道の最初の駅として木古内駅が誕生しました。1月には190年以上続く寒中みそぎ祭りが現在も行なわれています。

### ②視察内容

- ・木古内町では少子高齢化が進み、令和4年1月現在、高齢化率50.0%という状況でした。そのような中で、令和4年4月より移住定住支援として、マイホーム取得促進事業が実施されました。町民の定住や町外からの移住を促進することを目的として、新築住宅または中古住宅（敷地を含む）購入費に対して基本額100万円を補助するもので、新築する場合は土地100坪を無償譲渡する内容でした。更に新築住宅を町内業者と契約した場合200万円、子育て世代の子供一人に対して100万円、移住者に対して100万円、親族と同居した場合に100万円、また空き家バンク登録の空き家を購入した場合に50万円など補助金が加算されることが大きな特色

といえます。また、空き家リフォーム工事助成事業（町内にある空き家を住居のためリフォームする場合最高100万円補助金を交付）も進めており、他の事業と併用が可能との事でした。賃貸住宅に居住する世帯についても、40歳未満の世帯や子育て世帯に対して月額1万5千円（最高3年間）の補助を行っているとの事でした。令和4年～6年の3年間で41件の実績があり、町民23世帯、60名。町外からの移住者18世帯、25名の方が移住定住支援を利用されたとの内容でした。

## （2）江差町「歴史を生かしたまちづくりについて」

### ①江差町の概要

- ・人口：7,310人（令和7年4月現在）
- ・面積：109.48km<sup>2</sup>
- ・議員定数：12人
- ・議員報酬：17万6千円（月額）
- ・江差町は、北海道の渡島半島、北西に位置し、古くはニシン漁とその加工品の取引により栄え、北海道文化の発祥の地とも言われています。東西10km、南北17km。東部は山岳が多く山麓は丘陵になって海岸に迫っています。この沖500mに浮かぶ鷗島は自然の良港を形づくり、市街地はこの対岸に発達していて、北部は厚沢部川流域を中心に水田耕作地として発達しています。

### ②視察内容

江差町の「歴史を生かしたまちづくり」は、昭和63年、北海道の戦略プロジェクトのひとつとしてスタートし、平成元年に北海道で第1号の「歴史を生かす街並み整備モデル地区」として指定を受けました。同年「歴史を生かすまちづくり推進委員会」実施。以降ワークショップや協議会等を実施し協議を重ね、平成4年に「地区整備実施計画」を策定、平成8年に「ふるさと江差の街並み景観形成地区条例」が策定され街路事業が開始されました。長さ1060mの「いにしえ街道」を中心に街並み環境整備、電線類の地中化、建物修景、下水道事業などが進められ、平成16年10月末に総事業費約100億円（国からの補助金、約90億円、江差町負担、約10億円）の工事が完了しました。江戸時代からのメインストリートに商家や蔵、神社、古建築を活用した飲食店などが立ち並び、修景、復元された沢山の町指定歴史的景観形成建物等から、歴史の香りを感じました。

・木古内町、江差町にて



5、所感

・木古内町「移住・定住政策について」

人口約 4,300 人余りの木古内町ですが、移住、定住支援の政策に積極的に取り組んでいました。各自治体が競って様々な対策を行っておりますが、木古内町独自の内容として、移住を前提とした新築住宅購入した場合の土地 100 坪の無償譲渡、空き家を購入した場合のリフォーム費用（上限 100 万円）等が挙げられます。令和 3 年から 6 年の 3 年間で 41 件の実績があり、町民 23 世帯 60 名、町外からの移住者 18 世帯 25 名の皆様が移住定住支援を利用されているとの事でした。子育て支援や教育にかかる様々な費用に対しても沢山の支援メニューがあり、特に子育て世代に寄り添い、手厚い内容と感じました。佐野市でも多くの支援策を検討し、併用して利用できるシステムを検討すべきと感じた次第です。

・江差町「歴史を生かすまちづくりについて」

江戸時代から明治時代にかけて、隆盛を極めた江差町の様子が、16 年の期間、そして総事業費 100 億円の費用をかけて、修景・復元された「いにしえ街道」。情緒あふれる個性的な街並みとして広く知られ、多くの来訪者があるとの事でした。その歴史を感じさせ、歴史を生かす江差町の取組に対し熱い想いを感じ、様々な施設や再生された街並みを歩いてみて、その歴史観に感動しました。佐野市の歴史や文化を後世に繋いでいくため、今後も微力ながら尽力していきたいと思えます。

令和8年3月31日

佐野市議会議長 菅原 達 様

## 令和みらい 行政視察報告

議員名 神宮次秀樹

1, 期日：令和8年1月28日（水）～1月30日（金）（2泊3日）

2, 視察地及び視察事項

(1) 香川県 東かがわ市「読書活動推進計画について」（1月28日）

(2) 香川県 高松市「高松市まちづくりプランについて」（1月29日）

3, 参加議員

神宮次秀樹、菟原政夫

4, 視察報告

(1) 東かがわ市 「読書活動推進計画について」

①東かがわ市の概要

- ・人口：27,347人（令和6年12月末現在）
- ・面積：152.86km<sup>2</sup>
- ・議員定数：16人
- ・議員報酬：40万円（月額）
- ・政務活動費：平成20年度より廃止
- ・東かがわ市は、香川県の一番東に位置し、北は瀬戸内海東部の播州灘に臨み、西はさぬき市と接し、南と東は阿讃山脈を境に徳島県と接する自然環境に恵まれた地域です。平成15年4月1日に引田、白鳥、大内の3町合併により誕生し、瀬戸内海に面して平野部が開け、市街地と田園地域を形成しています。比較的晴天の日が多く、降水量の少ない瀬戸内海特有の温暖で穏やかな気候です。地場産業としては、全国シェア9割を超える世界的な手袋の産地であり、世界初のハマチの養殖発祥の地としても知られています。また、和三盆糖など伝統産業も有名です。

②視察内容

- ・東かがわ市では、いつでも・どこでも・だれでも自主的に読書活動を行うことができるよう長年にわたり「読書活動推進計画」を策定し、市立図書館を核として家庭、地域、学校等を通じて多くの市民の方々と連携し、読書環境の整備と充実に取り組んでおります。令和6年度にこれまでの計画の見直しなどを行い、新しい「東かがわ市読書活動推進計画」（令和10年までの5年間）を策定し推進しているとの事なので、見直した点を含め、進捗状況や今後の課題などについてお話を伺いました。東かがわ市立図書館は112,000冊余りの蔵書数で、平成30年11月より

スタートしました。館長をはじめ13名のスタッフが運営にあたっております。これまでの取り組みから見直した点として、子供の発達段階に応じた取り組みを行うことを基本方針とし、乳児期からの図書館の利用を重視し、図書館を身近な場所として位置づける活動としたとのことで、家庭での読書が楽しめる家読（うちどく）の啓発を行ったり、「家読だより」を年2回発行し読書を楽しめるきっかけづくりを進めています。また、春秋の年2回図書館まつりを開催し、家族で楽しめるイベント等を実施し「にぎやかな図書館」のPRを行っております。図書館内には、「ティーンズルーム」という中高生対象のスペースを設け、多言語や就職関連などグループ学習も行える場所を提供しています。また、システムとしてマイナンバーカードでの貸出を可能としており、対人を考慮しての自動貸出し機の導入も行っております。今後の課題として、交通弱者へのサービスの提供や、専門職の確保が難しい点などが挙げられるとの事でした。

## (2) 高松市「第2期まちづくりプランについて」

### ①高松市の概要

- ・人口：415,460人（令和8年2月1日現在）
- ・面積：375.67km<sup>2</sup>
- ・議員定数：38人（定数40名）
- ・議員報酬：61万5千円（月額）
- ・政務活動費：120万円（年額）
- ・高松市は、多島美を誇る波静かな瀬戸内海に面し、これまで様々な面において瀬戸内海と深いかわりの中で発展を続けてきた海に開かれた都市です。気候は年間を通じて寒暖の差が小さく、降水量の少ないのが特色です。明治維新の廃藩置県後、香川県の県庁所在地となりこれまで8回にわたる合併で北は瀬戸内海から南は徳島県境に至る海、山、川など恵まれた自然を有する広範囲な市域の中に、都市機能、水、緑が程よく調和し豊かな生活空間を有する都市となっています。特に、昭和63年の瀬戸大橋開通や平成元年の新高松空港開港、平成4年の四国横断自動車道の高松への延伸などにより高松市を取り巻く環境が大きく変化する中、平成11年4月、中核都市に移行しました。

### ②視察内容

高松市まちづくりプランは、社会情勢の変化や国・香川県等の動向、市民ニーズ、事業進捗を的確に反映していくため、基本構想8年間で4期に分け、2年ごとに見直しを行うローリング方式とし、第4期まで計画を策定するものであり、本年はその第2期の計画策定の年との事で、当初第1期計画の内容を伺う予定でしたが、第2期目の計画の概要を伺うことといたしました。

第2期計画策定の趣旨として、人口減少、少子・超高齢化の進行、東京圏への人口一極集中、不安定な世界情勢、地震や豪雨等の大規模災害の発生、デジタル化の急激な進展など取り巻く社会情勢は急激に変化しており、そのような中、持続的な発展と豊かな市民生活の創造に向けて、高松市ならではのまちづくりが求められています。第2期高松まちづくりプランは人口減少、少子・超高齢化に対する取組を最重点課題に位置づけ、特に

- ・若者・女性に選ばれるまちづくり
- ・コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり

- ・デジタルでつながるまちづくり
- ・イノベーションを生み出すまちづくり
- ・共生・共創・協働（3キョウ）のまちづくり

の5つを重点テーマに掲げ、施策・事業を取りまとめております。変化の激しい時代にあっても、未来を見据えて様々な課題に対応するため、社会経済情勢・市民ニーズの的確な把握に努め、将来世代への負担についても慎重に検討し、限られた人的資源や財源を有効活用できる実施計画となっております。

・行政視察の様子（高松市）

・行政視察の様子（東かがわ市）



5、所感

・東かがわ市（読書活動推進計画について）

東かがわ市では、読書環境へのこれまでの取組の課題を検証するとともに、読書活動を取り巻く社会状況等の変化を踏まえ、さらなる読書環境推進のため、「東かがわ市読書活動推進計画」を策定しました。平成30年に完成した市立図書館を拠点に様々な情報発信を行い、乳児期からの図書館の利用を重視し、市民の「身近な場所」となるような施策を進めておりました。面積約1500㎡の市立図書館は、ガラス張り箇所が多く開放的で、天井高のある室内空間は居心地の良さが感じられ、憩いの場として活用されていることを実感いたしました。佐野市における図書館、読書週間の今後の施策として、多くの参考となる点を感じた次第です。

・高松市（第2期高松市まちづくりプランについて）

高松市のまちづくりプランは佐野市における「佐野市総合計画」に当たるまちづくりの基盤となる計画で、令和6年よりスタートし基本構想8年間で4期に分け、社会情勢の変化や市民ニーズ、事業進捗を的確に把握し反映していくため、2年毎にローリング方式を取り入れておりました。今年第2期目のスタートとなっており、前期の見直し等を行い、視察内容にも挙げました5つの重点テーマを掲げ取組むとの事でした。若者・女性に選ばれる、デジタルでつながる等々佐野市と共有する点なども多く、ローリング方式でタイムリーに見直しを行うなど、中核都市としての進め方に共感する点が多くありました。今後の議員活動に生かして行きたいと思っております。